



## 地域ブロック情報



日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。今号では、中部地域ブロックの活動についてご紹介いたします。

### 中部地域ブロックから

中部地域ブロック担当理事  
宇都宮 みのり(愛知県立大学)

中部地域ブロックの主な活動は、①研究例会の開催、②機関誌『中部社会福祉学研究』の発行、③院生・初期キャリア研究者のための勉強会の開催の3つです。

研究例会は、毎年1回、春の研究例会として開催しています。これまでのテーマを振り返ると、2014年度「差別・スティグマの今日的課題—障害者差別解消法と生活保護から考える」、2015年度「子どもの貧困と教育福祉」、2016年度「介護保険制度の見直しの影響の検証」、2017年度「相模原障害者殺傷事件から問い直す“社会”と“福祉”」、2018年度「新しい社会運動と社会福祉」、2019年度「社会福祉の“監視化”を問う」、2020年度「見えない『助けて』と社会福祉実践」(コロナ禍により中止)、2021年度「見えない『助けて』と社会福祉実践」、2022年度「コロナ禍での孤立・孤独・生きづらさと社会福祉実践」、2023年度「ハンセン病と社会福祉」、2024年度「非行・犯罪行為に至った障害者と社会福祉」でした。近年は、ブロック会員だけでなく非会員の専門職・実践者の参加が大変増えてきました。地域からの期待に応えるべく、研究例会が学術と実践をつなぐ企画になっているのが特徴です。2025年度は、5月18日に「自己決定・意思決定支援のあり方を問う」をテーマとして開催予定です。社会福祉学やソーシャルワーク理論における自己決定と実践現場での意思決定支援に関わる取り組みを相互に学び合い、分野や領域を超えて自己決定と意思決定支援について議論する場とします。

機関誌『中部社会福祉学研究』は、年1回発行しています。第15号(2024年3月刊行)には、2023年度の研究例会の記録(テーマ「ハンセン病と社会福祉」)が30頁にわたって掲載されていて、そのまま貴重な資料となっています。また3本の学术论文と1本の研究ノートが収録されています。学会ウェブサイトの中中部地域ブロックのページからダウンロードできますので、ぜひご活用ください。

院生・初期キャリア研究者のための勉強会は、これまで春の研究例会と同日開催することが慣例のようになりましたが、過去には別日程で実施した経緯もありますので、今後、院生・初期キャリア

研究者の希望も聞きながら、より充実した勉強会にするために開催日や日数、開催方法など、工夫を凝らしていく予定です。

私は昨年5月に、前理事の谷口由希子先生(名古屋市立大学)から地域ブロック担当理事の引継ぎを受けました。ようやく1年目の終盤に差しかかったところです。中部地域ブロックの活動は幹事会によって担われており、この幹事会はブロック内の各大学から選出された会員13名+オブザーバー1名で構成されています。幹事の先生方は、それぞれ大学内の業務が増加し多忙を極める中、中部地域ブロックの活動に積極的に関わってくださいますので、私はいつも大変助けられています。幹事の先生方やブロック会員の皆様のお力添えをいただきながら、この地域の研究及び実践活動が活性化するよう今年も尽力したいと思います。よろしくお願いいたします。